

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

40

2011 SPRING

特集Ⅰ

医療現場へ即戦力を! 熊本大学医学部の先進的臨床教育

特集Ⅱ

子どもたちに笑顔と元気を 学生が主役“ユア・フレンド”



国立大学法人
熊本大学

Kumamoto University



CAMPUS SCENES

キャンパスの風景

全学教育棟前

毎年、合格発表の場となる
黒髪キャンパスの全学教育棟前。
今年も歓喜の声にあふれ、
在学生による胴上げで盛り上がった。

熊大通信 40

2011 SPRING

vol.



熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

- 【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp
- 【編集】 熊大通信編集委員会
矢加部 和幸／委員長・政策創造研究教育センター
溝渕 園子／文学部
河野 順子／教育学部
岸本 太樹／法学部
渋谷 秀敏／大学院自然科学研究科
田中 智之／大学院自然科学研究科
米満 孝聖／大学院生命科学研究部
首藤 剛／大学院医学薬学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
西村 兆司／マーケティング推進部広報戦略ユニット
- 【制作】 株式会社カラーズプランニング

CONTENTS

- 03 新年度 学長インタビュー
元気であれ、熊大生
谷口学長が熱く語る人材育成
- 05 特集
医療現場へ即戦力を！
熊本大学医学部の先進的臨床教育
- 11 研究室探訪
さらなる可能性に挑戦する
鎮咳薬研究のバイオニア集団
薬学部 環境分子保健学 高濱研究室
- 13 特集
子どもたちに笑顔と元気を
学生が主役“ユア・フレンド”
- 15 国際交流
インタビュー
歴史ある学び舎、温かい仲間たち
熊大で学び、日中の懸け橋になりたい
趙 越（チョウ・エツ）さん 王 曉博（オウ・ギョウハク）さん
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 Information

表紙／医学部附属病院臨床研修センターで行う、縫合のシミュレーション実習

元気であれ、熊大生

谷口学長が熱く語る人材育成

熊本大学の目指すところを具体的に示した「アクションプラン2010（谷口プラン）」の柱は、教育・研究・社会貢献・国際化の四つ。計画2年目の今年度、谷口功学長が特に強調するのが人材育成のための環境づくり。「教育力をアップさせ、世界に通用する人を育てたい。もっと学生に元気になってもらうために、できる限りのことをやります」と、力を込める。

タフな人間目指す

「九州一になったら、世界一の設備を持つ北京工業大学の体育館（北京オリンピックバドミントン競技会場）に連れて行くと、バドミントン部の学生と約束しました。がんばれ、がんばれという言葉だけでは駄目。目標のようないいものがあると気合いの入れ方が違うはずですよ」

谷口学長の口からまず出たのは、サークル活動の強化。先日は体育会幹部学生とコーチなどとの懇談会を開き、「強くなれ」と熱弁を振るった。各競技で勝って注目されるようになれば、学生はもちろん、学内全体が明るく元気になる。さらにそれを目指して、良い学生が集まる。

体育系42、文化系35のサークルには現在、それぞれ援助金が出されているが、懇談会で要望が出た運動機器の修理や設備の充実などが早速、予算化された。体育館の照明設備の修理も合わ

せると、その額は380万円。

「熊本大学が目指す人材は一口で言えば『タフな人間』です。リーダーとなって世の中を引っ張っていく人、社会がどう変わってもたくましく生きていける人を育てたい。学生時代にサークル活動などに打ち込んで熱く燃えたという経験は、そんな人材を育てる上でとても重要です。私の務めはそうした経験ができる環境づくり。もちろん文化部会とも懇談会を開いて、学生諸君の要望に沿って支援をしていきたい」。

一方で、「学生の本分は学業」と念を押すのも忘れない。「就職試験の面接で『学生時代はサークル活動がんばりました』と言うのが決まり文句になっているようですが、旧知の企業の人事担当者は、そんな学生は採用しない」と口をそろえます。『勉強や研究を一生懸命やってきたので専攻分野のことなら誰にも負けない。もちろんサークル活動もがんばりました』と、自信を持って言えるようになってほしい。専門性が高く、サークル活動などに燃えた経験のある熱い学生を社会は求めているんです」。

自分の目で世界を見る

「私は大学卒業と同時に、親や親戚

を駆け回って借り集めた50万円を持ってアメリカに渡りました。大卒の初任給が1万数千円のころです。本や論文で名前を覚えた著名な研究者に会って話を聞きたいと思い、飛び込みでいろんな大学に行きました。日本から突然やって来た一学生の私に、そうそうたる先生が気軽に会ってくれ、質問に答えてくれたばかりか、いい研究者になれと励ましてくれました。感激の一人旅は、今も私の原点となっています。学生諸君にもぜひ世界に出て行って、自分の目でいろんなことを見てほしい。そして学業やサークルに本気で取り組んで、世界に太刀打ちできる人になってほしい。本気で取り組む学生に支援は惜しみません」。

全国的に日本人学生の留学などは減っているといわれるが、本学は年間80〜90人と横ばい状態。学生の海外進出を促すために、世界各地の学生交流協定校（大学間、部局間それぞれ約30校）への留学生派遣や短期語学セミナーの実施、国際学会での発表を支援する国際奨学事業などを行っている。

「グローバル化した社会が求めているのは、世界に通用する人材であることを学生諸君に知ってほしい。国内の大企業や公務員に潜り込みたいと就職活動に力を入れるのもいいが、自らの



special interview: Isao TA

意思で世界に出て行って、やりたいことに挑戦できるのも若さの特権。大いにチャレンジする熊大生になってほしい」。

階段教室で「学長講義」

谷口学長が直接、学生にその思いを語りかけようと準備を進めているのが「学長講義」。国の重要文化財に指定されている旧制五高の化学実験場の階段教室で、全学部の新入生を対象に行いたいという。

「五高生が学んだ伝統ある教室で、本学の歴史や伝統、現状や目指すところ、そして社会から『さすが熊本大学の卒業生』と言われるような人材育成についてなど、学生諸君に話したいことはいっぱいあります。1回70〜80人程度としても新入生は1800人いますから25回という計算になります」。

現在、学生が学長の話を直接聞くのは入学式と卒業式ぐらい。「学生との懇談会をやったり、体育会の試合など是可以だけ応援に行ったりしている」というものの、その思いを直接耳にする機会は少なく、学長の顔すら分からない学生も多い。学長が自ら全新入学生に講義する大学は他にはなく、熊本大学の名物講義になるはずだ。

「特集Ⅰ」

医療現場へ 即戦力を！

熊本大学医学部の先進的臨床教育

明治29年に設立された私立熊本医学校を礎とし、全国でも有数の歴史を誇る熊本大学医学部附属病院は、最新医療の提供や、地域の医療体制構築という大きな使命を担っています。一方で「優れた医療人」を育成する研究・教育機関としての役割を併せ持ち、医学生たちの人格のかん養とプライマリ・ケアの基本的な診察能力の習得を図るため、先進的な臨床教育を行っています。

西病棟、中央診療棟、そして東病棟が完成し、さらに教育環境を充実させた熊本大学医学部附属病院。次世代へ向けて優れた医療人を育成する、熊本ならではの先進的臨床教育について特集します。



現場のリアルを体感！ シミュレーターによる実習で 手技・技術を磨く

知識の蓄積のみならず、臨床技術の充実を求められる医学教育。そのような時代の流れを受け、熊本大学医学部ではシミュレーターを使った臨床教育プログラムを導入し、より高度で実践的な実習を可能にしています。

充実した設備で 最先端の臨床教育を

「熊本大学医学部附属病院臨床研修センター」（以下臨床研修センター）は、臨床教育の充実を図る目的で、平成14年に設置されました。現在は中央診療棟7階の広いフロアに置かれ、医学部学生、初期研修医向けの臨床シミュレーション教育プログラムをはじめ、初期研修医を指導する指導医を養成する講習、生涯教育としてのセミナー、職種別のカンファレンス、そして研修医を採用する試験など、多岐にわたって活用され、年間1万人が利用しています。利用者は、医学部学生や初期研修医のみならず、医療従事者全般に及

び、診療科や職種を超えた優秀な医療人育成に向けて取り組んでいます。

臨床に強い人材を育成し 医療の専門化に対応

「医師国家試験に必要な知識だけでなく、診療手技などの臨床技術を身に付けてほしいという思いから、臨床研



「教科書では学べないことを、シミュレーション実習で体験してほしい」と語る竹屋元裕医学科長



婦人科の内視鏡手術のシミュレーションを行う学生。
ハサミやメスなど数種類の器具を使い分ける。医療現場の手術さながらの緊張感だ

修センターが設置されました」と語る竹屋元裕医学科長。全国の医大に先駆けて設置された同センターに追随するかのよう、臨床教育に関わる制度や試験を相次いで国が策定。同16年4月には医師の臨床研修が必修化され、翌年には共用試験の一部として客観的臨床能力試験「OSCE（オスキー… Objective Structured Clinical Examination）」が全ての医学科4年生に課せられるようになりました。

「ここ十数年で、医療の細分化・専門化が飛躍的に進みました。外科の中でも消化器外科、消化器外科の中でも内視鏡外科というように、専門性に特化したサブスペシャリティーに優れた専門医を育てるためのさまざまなプログラムを提供しています」と語るのは、片瀬秀隆総合臨床研修センター長。中でも、高度なシミュレーターを使った臨床シミュレーション教育プログラムは、学生たちに人気の高いプロ



グラムです。現在、100種類以上のシミュレーターを導入。8分野27種類のコースがプログラム化されており、学生たちの手技技術の向上をサポートします。取材当日には医学科5年生が縫合や内視鏡手術などのシミュレーション実習を行っていました。『クリニカルクラークシップ』で学ぶ医学科5年生は、「OSCE」をクリアし、約1年にわたる臨床実習で熊大病院にある全ての診療科を経験し終えた学生たちです。さまざまな科を経験した後興味のある科、あるいは苦手な科を選



押し、特に手技についてシミュレーターを使って学んでいます」と語る石河隆敏副センター長。

腹腔鏡を使った胆のう摘出手術のシミュレーション実習に参加した医学部5年生の神宮隆臣さんは「ハサミで切った感覚や、隣の臓器に触れた感触までリアルに分かります。実際の腹腔鏡手術を見学したことがあるのですがその時の印象以上に大変で、手も疲れるんだなということを実感しました」。

難易度の高い手術に現場さながらの緊張感をもって取り組める貴重な体験だと思います。

教育機関として
さらなる独自性を備える

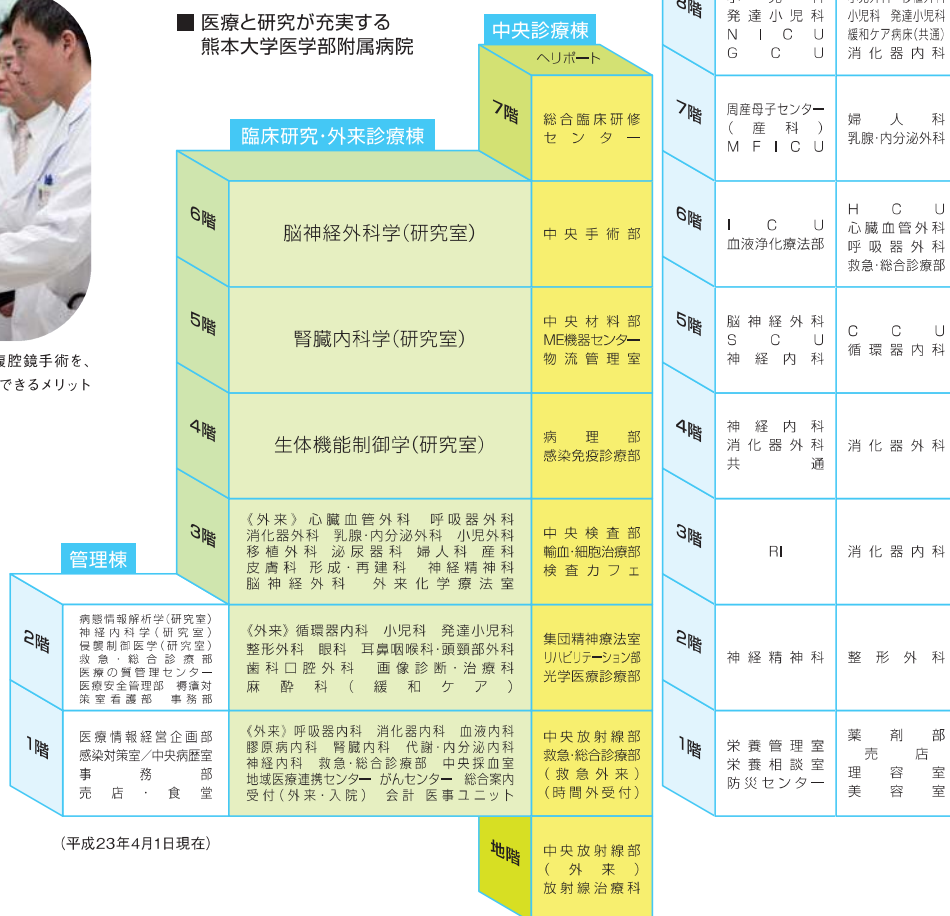
本学医学部は、平成20年秋から大分大学、宮崎大学と協働し、優秀な医療人を育成する「中九州三大学病院合同



専門医養成プログラム」を行っている。これは文部科学省「大学病院連携

型高度医療人養成推進事業」の一環として、本学が隣県の2大学を統括しながら進めているもので、それぞれの大学病院の得意分野を相互補完しながら学び合うユニークな取り組みです。

■ 医療と研究が充実する
熊本大学医学部附属病院



育研究センター」を立ち上げます。竹屋医学科長は「これまでの医学部教授は、臨床、研究、教育と全てを担う必要があり、教育専門に取り組むことはありませんでした。教育研究センター開設にあたり、医学教育に特化したス

ベシャリストを教授として招へいすること、より充実した医学教育システムを構築していきます。さらに質の高い医療教育を目指したいですね」と語ります。

皮膚の縫合訓練のシミュレーションを行う学生たち。結さつ力、皮膚に加わる力、縫合感覚などが細かくスコア化される

模擬患者さんとの対話を通じ 最善の医療を提供できる医師へ

学生が模擬患者さんと対話し医療面接を行う臨床実習は、知識だけでなく、社会性やコミュニケーション力を高めるシミュレーション実習として注目されています。

知識偏重から臨床教育へ 見学型から参加型へ

本学医学部が臨床教育として取り入れている医療面接。医師役の学生が、模擬患者さんとの会話の中で、必要な情報を聞き出したり、的確に説明する能力などを身に付ける目的で行われています。

医療面接を授業に取り入れたのは、医学部に総合診療部ができた平成11年から。その後、同17年度に始まった「客観的臨床能力試験（OSCE）」の試験項目の一つに医療面接が組み込まれ



「知識評価だけでは、優秀な医療人は育成できない」と語る谷口純一講師

たこともあり、現在では医学部4年生全員が「臨床実習入門」の実習、さらに「OSCE」で医療面接を体験します。「医師がより安心・安全な医療を提供するために、医学教育変革の観点から、従来の「見学型」より「参加型」の臨床実習が望まれています。そのために知識偏重ではなく、基本的な臨床技能およびコミュニケーション能力を事前にトレーニングする教育と、それを測る「OSCE」が導入されました。これら双方にご協力いただいているのが、一般市民のボランティアの方々による模擬患者さんです。そのおかげでより良い実習が可能となっています」

と語るのは、谷口純一医学部附属病院救急・総合診療部講師。

模擬患者さん向き合うことで 医師としての課題を探る

医療面接は、初診に訪れた患者さんを医師（Ⅱ学生）が診療するという設定で、10分間程度行われます。医師は、あいさつ、自己紹介、患者さんの名前の確認に始まり、さまざまな症状や気になる点などを聞き出していきます。一方、模擬患者さんは、シナリオに基づき、問診に過不足なく答えていきます。「学生たちが、トレーニングを重ね、だんだん上達していく。その姿は頼もしいですね」と谷口講師。

面接後は、本人の感想、模擬患者さんの視点による診察の印象、そして指導医の考えなど、それぞれの立場で意見交換し合い、幅広い視野の獲得やコミュニケーション力の向上を目指します。この日、医療面接を行った医学部5



本人の症状だけでなく、家族の病歴などを聞き出し病気の原因を探る村上瑛梨さん

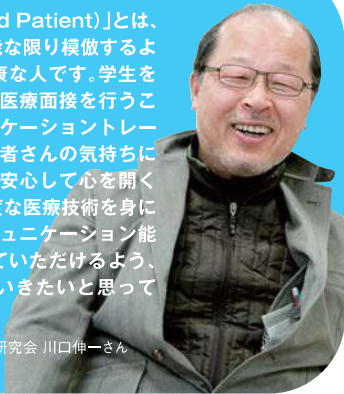
年生の村上瑛梨さんは「とても緊張しました。患者さんに安心感を持っていただいた上で面接しないと、必要な情報を得るのは難しいと痛感しました」と語ります。

医療面接がもたらす さらなる可能性とは？

医学部だけでなく薬学・歯学部などさまざまな分野で「OSCE」が導入され、必要性が高まる医療面接実習。今後は、卒後教育への活用や、がん告知など難しいケースの医療面接なども望まれています。

「模擬患者（Simulated Patient）」とは、疾患を持つ患者を可能な限り模倣するように訓練を受けた健康な人です。学生を相手に患者役を演じ、医療面接を行うことで、学生のコミュニケーショントレーニングを行います。患者さんの気持ちに寄り添う医療者には、安心して心を開くことができます。「高度な医療技術を身に付けると同時に、コミュニケーション能力のある医師になっていただけたよう、これからも協力していきたいと思っています」

熊本医療コミュニケーション研究会 川口伸一さん



地域の医療のために 求められる医療人を育てる

全国的に地域医療の崩壊が問題視されている中、
本学医学部では行政と連携して
「地域医療を担う医師」を育てる取り組みを行っています。

「病気だけでなく
社会を診る医者」を育てる

平成21年度の調査では、熊本県下の
病院で働く医師の数は、人口10万人あ
たり240人。県全域でみれば全国平
均の206・3人を大きく上回っては
いますが、熊本市とその近郊では36
4・9人、阿蘇地域などではその3分
の1以下となっており、地域による偏
在が顕著となっています。

この医療の実態を把握し、地域医療
の課題や解決策を研究するために熊本
県の寄附で開設されたのが「地域医療
システム学寄附講座」です。

「人口の少ない地域では、医師の数
に対して仕事量が多く、そのため辞め
てしまう人が多い。残った医師への負
担はさらに大きくなり悪循環を招いて
います。この状況にどうやって歯止め
をかけるかを考えるのと同時に、これ



医療技術ではなく、
心構えの大切さを語りかける黒田豊教授

からの地域医療を支える医師の育成を
目的としています」と語るのは、地域
医療システム学寄附講座の黒田豊特任
教授。

学部3年生を対象に行われる公共衛
生学の講義では、医療法や介護保険、
地域保健計画について授業を行ってい
ます。「高齢化の進む地域では特に
、患者の病気を治す」ことだけでなく、
住民の健康増進や維持など、一人一人
に向き合い、その人生に関わり合うこ
とが求められています。そのためには、

医療制度や行政サービスについての知
識が必要不可欠です」。

地域医療を目指す学生を支援

同21年度から、本学医学部に「熊本
県医師修学資金制度」が創設されまし
た。これは、地域医療を目指す学部生
5名を対象に熊本県から貸与される奨
学金で、卒業後9年間は県内の地域医
療に従事することが義務付けられてい
ます。

また、同22年度から始まった「地域
枠入学制度」も、同じ志を持つ新入生
のための受け入れ枠です。これらの制
度で入学・在学する学部生を中心とし
て、「地域医療システム学寄附講座」
では定期的な勉強会などを行っています
。現在では、この勉強会へ、地域医
療に興味を持つ学生の参加も増えてい
ます。

地域医療の現状を知り ニーズに応えられる医者へ

黒田教授は「知識だけではなく、地
域医療の現状を身をもって知り、何が
必要とされているのかを感じ取ってほ
しい」と語ります。

同22年8月には、自治医科大学と合

同で阿蘇郡小国町での実習を行いました。
た。実習といっても病院での臨床実習
ではなく、地域住民への聞き取り調査
を行うフィールドワークです。さまざ
まな意見を現地で耳にし、学生たちが
特に感じたことは、「医師と住民の信
頼関係の重要さ」でした。

「数少ない医師で住民の健康をサ
ポートするためには、コミュニティー
に溶け込み、信頼を得て、密な関係を
築かなければなりません。その面白さ
を、多くの学生に伝えたい」と話す黒
田教授。地域医療を担う新たな医師の
育成と同時に、今後は医師を支援する
システムの構築や行政への提言も行っ
ていきます。



天草市で生まれ育ったという、
医学部2年生の入江晃士朗さん。「母が特別養護老人ホーム
に勤務していたので、自分自身も若い頃からお年寄りとな
り話をすることが多く、医者への不満などをよく耳にしてい
ました。将来は、地域のお年寄りが安心して暮らせるよう
に、故郷の「町医者」としてみんなに頼られる存在になるこ
とが夢です」

医学部2年生 入江晃士朗さん

研究室探訪

Laboratory Exploration

中枢性鎮咳のメカニズムや環境ホルモンについて研究を重ねる高濱研究室。アスベリン[®]が持つ新たな可能性に着目し、環境分子保健学の観点から研究に取り組んでいます。

同研究室では、アスベリン[®]が、咳だけでなく難治性うつ病や、ADHD(※)、強迫性症候群、脳こうそくによる排尿障害など、さまざまな難治性疾患のモデルに有効であることに着目。環境ホルモンの影響を受けたマウスに同薬を投与すると、脳かく乱などの症状が現れなかったという実験結果から、生き物が生来持っている生命バランスを保とうとする力を促進させる作用を持っているのではないかと推測しています。「長年の研究で、アスベリン[®]が脳の中にある『Gタンパク質共役型内向整流性カリウムイオンチャネル(通称GIRKチャネル)』の働きを抑制することを発見しました。今後は、それがどのような形で他の難治性疾患に効果を示すのかを解明し、臨床につなげたい」と高濱教授は語ります。

思うようなデータが取れず、研究に行き詰まることも多いという学生たちに、よく自身の経験談を話すという高濱教授。「私自身も若いころは観察が甘く、実験が何カ月間も進まなかったという経験があります。観察が甘いと見えるものも見えない。失敗を繰り返しながらトレーニングを積むと、見えるようになる世界がある。見えたときの達成感は、必ず学生たちの血となり肉となり、自信につながります」。

“研究者ならノーベル賞を！薬剤師なら世界一の薬剤師を目指そう！”が合言葉の高濱研究室。「今までの薬の概念にないオリジナルな研究で世界をびっくりさせたい」と学生たちは口をそろえます。

※ADHD (Attention Deficit / Hyperactivity Disorder) 注意欠陥／多動性障害

高濱研究室

薬学部

環境分子保健学

50年以上の長きにわたり利用されてきた小児用鎮咳薬アスベリン[®](チペピジン)は、熊大薬学部で開発された咳止め薬です。環境分子保健学の高濱研究室では、アスベリン[®]が持つさらなる可能性について他にはないオリジナルな研究を行っています。



↑子どもが風邪をひいたときなどによく病院で処方されるアスベリン[®]



←実験に必要なマウスは“小さな仲間”。研究のメンバー全員で大事にかわいがっている

↙「試行錯誤も勉強のうち」という高濱教授の言葉に励まされ、今日も研究は続いている

↓研究に行き詰まったり悩んだりしたときは、相談することが重要。助け合い、みんなで考えながら難関を乗り越えていく



さらなる可能性に挑戦する 鎮咳薬研究のパイオニア集団

高濱研究室には、高濱教授(2
列目中央)をはじめ、大学生13
名と大学院生5名、ドクター2
名が所属している





意見交換会は、学生たちにとって悩み解決の場でもある。お互いに気付いたこと、アドバイスなど、活発に意見が飛び交う

第三者が関わり、 社会性を育む

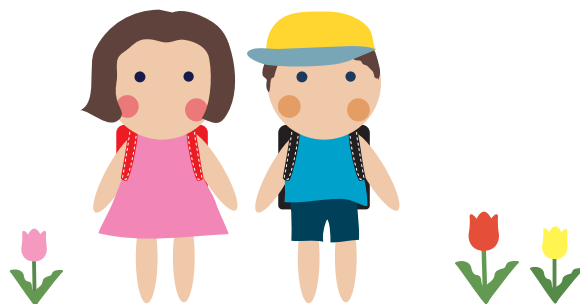
現在、不登校児童・生徒と呼ばれる子どもたちは、熊本県内で1500人を超えるといわれています。教育学部附属教育実践総合センターでは、熊本市教育委員会との連携を図り、平成14年より「ユア・フレンド事業」を開始。熊本市の各小・中学校の協力の下

〔特集Ⅱ〕

子どもたちに笑顔と元気を 学生が主役 “ユア・フレンド”

で、学校や児童・生徒の各家庭などを学生たちが訪問し、彼らの話し相手「ユア・フレンド」になる取り組みを行っています。

同22年度の「ユア・フレンド事業」の登録者は、教育学部2年以上の146人。将来、教諭を目指す学生たちが、カウンセリングマインドなどについて研修を受けた後に、週に一度、子どもたちの元を訪問します。そして、お





ユア・フレンドに登録すると、必ず研修を受けてレポートを提出。その成績によって、市教育委員会への推薦が決まり、マッチングを経ていよいよ訪問へ

しゃべりをしたり、ゲームをしたり、時には外へ飛び出して散歩やスポーツを楽しむなど、子どもたちと同じ目線に立ち、社会性を育むお手伝いをしています。年上のお兄さん・お姉さんは子どもたちにとって「お友だち」。ユア・フレンドの目的は、不登校児童・生徒を学校へ行かせることではありません。

「楽しい」が子どもを変える

学生が子どもたちと触れ合う機会といえば、教育実習。ユア・フレンドは教室外を舞台に行う活動であり、学校では見ることができない彼らの姿を知

家庭や教育センターへ学生を派遣 不登校児童に寄り添い、話相手に



アンケートなどで学生と児童・生徒の嗜好(しこう)や相性などを調べ、マッチング作業を行う乙村さん

る貴重な場です。学生たちはマニュアルのない中で、考え、悩みながら一歩ずつ進んでいます。

活動に関する意見交換会も年に二回行われており、「1対1の派遣では、児童・生徒の心に寄り添うことが大切。苦しい活動などにも向き合わせるためには、イベントを作ってモチベーションを上げる工夫をしている」「児童・生徒の友達として、自分も本来の姿を見せて関わるが必要」など、自ら導いた接し方の発表が続きます。一方では、「学校・保護者がユア・フレンドに対して登校刺激や学力向上を求めるケースもあり、三者共通の理解を持って活動を行う必要がある」ほか、さまざまな問題も提言されました。

「専門家ではない学生たちを、児童・生徒の元へ派遣する事業は全国でも例がなく、注目を集めています。学生にとっても、この経験が自信につながり、教壇に立ったときに大きな力になるんです」と、同センターの高原朗子准教授。

熊本市教育委員会での教育対策派遣事務員を務める乙村 萌(めぐみ)さんは、熊大OG。卒業までユア・フレンドとして活動し、卒業後には市の窓口として学校と学生の間立ち、訪問先を調整するマッチングを担当しています。4年間の活動を通して乙村さんが気付いたことは、「自分が楽しんでいれば、相手も楽しい」ということ。楽しい時間を一緒に過ごすことで、子どもたちや保護者など周囲が変わっていくといいます。

また、保護者からは「子どもの表情が明るくなった」「学校や教室へ行けるようになった」など、学校を通してさまざまな朗報が届きます。学生たちの熱心な取り組みは、不登校に苦しむ子どもたちの心を開き、少しずつ社会や学校と関わる意欲を生み出しているのです。

まるで妹や弟と接するように、健康やかな成長を支える学生たち。「楽しい」を合言葉に、今日も活動は続きます。



インタビュー

大学院社会文化科学研究科

歴史ある学び舎、温かい仲間たち 熊大で学び、日中の懸け橋になりたい

趙越(チヨウ・エツ)さん 王曉博(オウ・ギョウハク)さん

大学院社会文化科学研究科東アジア・ビジネス・コミュニケーション専門
職コースで学ぶ中国人留学生の趙越さん(28歳)と王曉博さん(24歳)。
熊本大学で日本文化や日中ビジネスの違いを学び、将来は日中をつなぐ仕
事をしたいと語ります。



伝統と歴史は、私たちの誇り

大学院社会文化科学研究科東アジア・
ビジネス・コミュニケーション専門職
コースでは、アジアからの留学生が日中
文化比較や日本ビジネス論、さらに日本
語コミュニケーションなどを学んでいま
す。趙さんと王さんは同コースで学び、
趙さんは2年、王さんは1年半の月日が
流れました。

「初めて熊本大学に足を踏み入れたと
き、れんが造りの五高記念館に歴史の重
みを感じました」と語る趙さんは、吉林
省出身。四川省の西南财经大学で観光管
理について学んだ後、来熊しました。

「熊本大学に留学していた親戚から、学
力の高い学生が集まっていると聞いて留
学を決めました。夏目漱石が教壇に立っ
ていたことや、中国でも人気のある漫画
家が熊本で学んだことを聞き、同じ場所
にいると思うだけで、すごくドキドキし
ます」と、日本文学やアニメが大好きな
趙さんは語ります。



ゴミ出しやバスの乗り方など、必要なこ
とは熊大の仲間が親切に教えてくれたと語る
王さん

「日本と中国は、価値観や生活環境の
違いから、さまざまな摩擦が生まれるこ
とがあるため、熊本大学で日本のビジネ
ス手法や文化習慣をしっかりと学び、双
方の懸け橋になりたい」と考える趙さん
は、積極的に周囲の人々と関わり、日本
の暮らしや文化を理解するように心掛け
ています。将来は両国間の円滑なパート
ナーシップを支えるような仕事に就くこ
とが目標です。

一方、黒竜江省出身の王さんは、遼寧
省大連市にある大連理工大学で日本語を
専攻した後、協定校である熊本大学に留
学しました。映画脚本の翻訳家になりた
いという王さんは、これまで熊本大学で
行われてきた数々の映画口けに興味津々。
「口けが行われた『坂の上の雲』の再放
送は必ず見ました。いつも歩いている
キャンパスに、貴重な文化財があること
を誇りに思います。みんなに『ここが私
が通っている大学よ』って大きな声で伝
えたいくらい、私は熊本大学が大好きな

International exchange Report

国際交流レポート／平成22年12月～23年2月

12月4日 / ベトナム・ハノイにおいて第8回熊本大学フォーラムを開催(5日まで)

本学ならびにベトナムにおける協定校の研究者・学生による研究発表や、国際交流についての意見交換が行われました。また、本学とハノイ建設大学・フエ大学・ホーチミン工科大学との大学間交流協定の調印式も行われました。フォーラムには2日間で520名の来場がありました。



11日 / 「くまもとを知らう! 熊本城ボランティアガイド養成講座」閉講式

養成講座の修了生である在熊留学生らに、本学国際化推進センター副センター長の鳥居修一教授より修了証書が授与されました。

13日 / 本学大学院生命科学部、医学教育部、医学部と浙江大学医学部(中国)との部局間交流協定を締結

本学の大学院生命科学部部長が浙江大学医学部を訪問し、交流協定締結の調印式を行いました。引き続き、日中交流国際生命科学シンポジウムを開催しました。

18日 / 留学生交流パーティーを開催

本学留学生および学内・学外関係者約400名が参加し、親睦を深めました。

15日 / 海外留学成果発表会を開催

15日 / 本学大学院自然科学研究科主催による第5回学生国際会議(ICAST)を開催(16日まで)



18日 / 熊本地区留学生シンポジウムへ本学留学生が参加



2月7日 / 本学大学院先端機構と発生医学研究所の共催でノーベル医学生理学賞受賞者T.Hunt博士のセミナーを開催

セミナーでは最新の細胞周期の研究成果について発表があり、約200名が参加しました。



15日 / 留学生実地見学旅行(福岡、山口方面 16日まで)

本学留学生116名が参加し、日本の歴史・文化への理解を深めました。



17日 / 留学生への自転車寄贈式(熊本県銀行協会より)

熊本県銀行協会から、熊本留学生交流推進会議に対し自転車8台の寄贈があり、本学にはその内3台の自転車に留学生用に配分されました。

21日 / 日本語研修コース修了式、短期留学プログラム閉講式の開催

熊本での生活全てが学びの場

「熊本での生活全てが学びの場」と、その目を生き生きと輝かせました。

日本と中国のサービス業における価値観の違いは興味深いと語る王さん。「例えば、お客さまが悪いのに、お店がまず謝ることがあるでしょう? 中国では考えられません。和を保つために周りの人やお客さまに細やかに気を配るところは、日本特有の文化だと思います」。

また、王さんは日本への理解を深めたという思いから、日本舞踊の教室に通っています。「日中の違いや日本文化



趙さんの出身地、吉林省は真夏でも涼しい土地。「熊本の夏の暑さには、びっくりしました」

の奥深さを感じました。熊本でのさまざまな体験を卒論に生かしたいですね」。

一方、放課後は携帯電話店でアルバイトをし、日中英の3カ国語を使って接客する趙さん。卒論のテーマに「日本における中国企業の経営法」を選び、「中国

経済の発展にともない、中国企業が日本に拠点を増やす可能性はある」と考え、その方法論についてまとめました。

二人は「学校の勉強だけでなく、さまざまな人との出会いなど、熊本で暮らすこと全てが私たちに与えてくれた学びの場です」と語ります。

留学生にとって恵まれた環境

「留学が決まった時に一番困るのは、住居の問題です。熊本大学には国際交流会館があり、家賃も安く家具を買う必要もないため、安心して来日できました。また、留学生同士のネットワークも密で、

インターネットのチャットなどを通じて情報交換をしているので、生活面で困ることもありません。留学生にとって、熊本大学はとても恵まれた環境です」と、二人は口をそろえます。

趙さんは「日本語が上手にならないと焦ったり、研究が行き詰まったりすることもあります。そんなときは吉川榮一コース長や友達に相談に乗ってもらい、皆さんのポジティブな考え方に支えられています。先生や多くの仲間たちとの出会いは、私にとって一生の財産です」と、感謝の思いを語ってくれました。

このインタビューは平成23年3月に行われたものです

卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちの
これまでの歩みや苦労、そして喜び、楽しみなどを通して
精励するその姿をご紹介します。



飯田 朋未 Tomomi IIDA

学校法人熊本学園 熊本学園大学付属高等学校 勤務
工学部数理工学科・平成21年度卒



大学時代は「今しかできないことをやろう!」と思い、工学部学生会活動、ボランティア活動、「火の国YOSAKOI祭り」の運営など、さまざまなことに積極的に参加。そこでの経験や出会った人たちとのつながりが、自分の世界を大きく広げてくれました。また、学科の先生方や仲間にも恵まれ、本当に充実した4年間でした。大学3年時に就職活動を経験しましたが、4年時に経験した教育実習で教師になることを固く決意。そして卒業後は、母校の熊本学園大学付属高校で数学講師として勤めています。現在は、生徒たちと共に楽しい日々を過ごせてとても幸せです。在学生の皆さんも、大学時代にいろいろなことを経験してみてくださいね。



山本 雄一郎 Yuichiro YAMAMOTO

有限会社アップル薬局（熊本）勤務
薬学部薬科学科・平成9年度卒



製薬企業のMR（医薬情報担当者）を経験後、熊本県内の調剤薬局に勤務。現在は、薬剤師として「有限会社アップル薬局」の大津店と清水店で患者さんのQOL（クオリティー・オブ・ライフ）の向上を目指し、学び続ける毎日です。また、「服薬ケア研究会」という組織に所属し、全国の薬剤師と共に“薬剤師の医療”という視点で活動しています。在学中は「あれをしたい」「これをしたい」と自分中心の考えしかありませんでしたが、今は「患者さんや薬剤師のために何ができるのか」とチャレンジを続けています。在学生の皆さんも「他人のためにできることは何か」という問いを自分に向け、これから進むべき道を選択してほしいと思います。



濱崎 録 Fumi HAMASAKI

国立大学法人熊本大学法学部 勤務
西南学院大学法学部法律学科・平成12年度卒／大学院法学研究科・平成15年度修了



法学研究科を修了した後、数年を経て、平成21年度から母校の法学部で民事訴訟法の研究・教育を行う機会をいただきました。主に、民事裁判の当事者が有している証拠などに格差がある場合に、公平で適正な裁判を実現するための方策を研究しています。また講義やゼミでは、民事訴訟法に関する知識はもとより、疑問を持ち考えることの重要性和面白さを伝え取り組んでいます。まだ研究者、教員としての経験も浅いため、共に学び考えながら、学生の皆さんの充実した学生生活の手助けができればと考えています。どうぞ学生時代という恵まれた時間に、さまざまな事柄をじっくりと考え、向き合う楽しさ、充実感を味わってください。



青木 早織 Saori AOKI



国立大学法人熊本大学医学部附属病院産婦人科 勤務
医学部医学科・平成20年度卒

もともと福祉の仕事を志望していましたが、将来の可能性を開きたくて医学部に入学しました。出身地、年齢、志望理由もさまざまな友人たちに囲まれ、多彩な考え方を学び知った6年間でした。部活動、漢方や法医学の勉強、新入生のお世話など好きな事ばかりしていましたが、それらを通じてできたつながりが今の私の大きな支えです。臨床研修を終え、4月からは産婦人科で全年齢の女性の心身の健康をサポートしています。男性も女性も「産婦人科は妊娠してから行けばいい所」と思わず、避妊や性感染症についての正しい知識を持ち、女性の皆さんに子宮がん検診を定期的に受けて、自分を守ってほしいと願っています。



原田 寿真 Kazumasa HARADA



国立療養所菊池恵楓園 社会交流会館（熊本）勤務 （財団法人日本科学技術振興財団より出向）
文学部地域科学学科・平成19年度卒／大学院社会文化科学研究科博士前期課程・平成21年度修了

私が学生時代に学んだ民俗学は、「人の話を一生懸命聞く」という調査を積み重ねていく学問です。人は皆、普段は口に出すことの無い、しかしながら実は訴えたい“想い”を心に抱えています。それを正面から受け止め研究をするのが民俗学です。

現在私は、元ハンセン病患者の方々が生きている「国立療養所菊池恵楓園」の中にある資料館で、学芸員として勤務しています。かつてハンセン病患者は、国策により世間から隔離された生活を送らねばなりません。そんな時代を生きてきた、今も園で暮らす皆さんの“想い”を受け止め、人を大切にするこの意味を考える、これが私の役割だと思っています。



永本 弘子 Hiroko NAGAMOTO



学校法人中村学園 中村学園大学人間発達学部人間発達学科（福岡）勤務
教育学部中学校教員養成課程美術専攻・平成16年度卒／大学院教育学研究科教科教育専攻・平成18年度修了

学部1～2年次は美術に関する基礎を学び、学部3年から修士2年までは木工芸を専攻し、休日も木工室で制作に没頭。この貴重な時間こそ、今の私をつくり上げた貴重な原点です。その後は、中村学園大学美術部門の助手として、小学校教諭や幼稚園教諭を目指す学生たちの授業の補助を行っています。忙しい毎日ですが、明るい学生たちに日々元気をもらっています。もちろん、現在も作品制作を続け、制作と教育学の研究に精進しています。「現状に満足する者は、先には進めぬ」。この言葉を胸に、常に前進していきたいです。学生の皆さん、夢中になれる何かを見つけて、貴重な学生時代を実りあるものにしてください。



池田 昌弘 Masahiro IKEDA



独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校（福井）勤務
理学部物理科学学科・平成15年度卒／大学院自然科学研究科博士後期課程理学専攻・平成22年度修了

平成22年3月に学位を取得し、現在は福井高専の物理教員として働いています。放課後になると、学生が物理の問題を質問しにきたり、日常生活の悩みを相談しにきたりと、そんな“学生との関わり”を楽しんでいます。私は以前より、物理教育に携わる仕事に就きたいと思っていたこともあり、一時は高校の教員を目指していましたが、しかし一方で、「研究者になりたい」という思いも捨て切れず、「人生は一度限り。年を取ったとき後悔はしたくない」と一大決心して、博士課程に進学したことを覚えています。後輩の皆さんにも、悔いが残らないよう、充実した学生生活を送ってほしいと思います。

「アイアンマン」さんから医学部附属病院へ 善意の贈り物をいただきました



平成23年1月14日(金)、医学部附属病院の防災センター窓口に50代から60代くらいと思われる男性が現れ、「他人から頼まれた」と3つの大きな段ボールを置いて去って行かれました。段ボールの中には、大小合わせて96個の新品のぬいぐるみが入っており、「小児科の子どもさ

ん達他入院患者さん方に、差しあげてください。商品は、新品です。はやく病気が治りますように、心から願います。正義の味方アイアンマンからです」とのメッセージが添えてありました。看護師よりぬいぐるみを手渡された子どもたちは、大変喜んでいました。

ボランティア活動員を募集しています

医学部附属病院では、善意によるボランティア活動員を募集しています。

●外来ボランティア活動員

活動内容／外来でのお世話、受診手続きの説明、診療科への案内、車椅子の手配や介助、幼児の世話など
曜日／月～金曜日(祝日を除く)
時間／8:30～17:00
※活動内容、時間帯はご相談に応じます

●図書ボランティア活動員

活動内容／図書室内の受付・案内
(東病棟12階 ライブラリーインフォメーション内)
曜日／月～金曜日(祝日を除く)
時間／13:00～17:00
※活動内容、時間帯はご相談に応じます

【問い合わせ】

医事ユニット 医療総務担当
Tel.096-373-5965 Fax.096-373-5957

「たんぼぼハウス」へご支援ください

「たんぼぼハウス」は、独立行政法人福祉医療機構の助成金と、利用者の宿泊費で運営されているボランティア施設です。入退院を繰り返したり、長期入院を余儀なくされる子どもに付き添う家族や、一時帰宅の難しい子どもが家族と一緒に過ごす場所として利用されています。

子どもと一緒に闘病の日々を過ごすご家族をサポートするため、皆さまの温かいご支援をお待ちしています。

【問い合わせ】

たんぼぼハウス事務局
Tel&Fax.096-339-6379
E-mail:ktanoue@muse.ocn.ne.jp
郵便振替口座
01790-0-115181「たんぼぼハウス」
※一口2,000円から。何口でも結構です

本学留学生が幸山政史熊本市長との対談番組に出演



熊本在住の留学生の率直な意見を幸山政史熊本市長にぶつけ、本音のトークバトルを展開する「ガチトーク!」の収録が、1月23日(日)TKU(テレビ熊本)本社スタジオで行われ、本学からは7人の留学生が

収録に参加しました。

熊本市内の観光地や交通機関にある外国語の標識が不十分なことや、公共交通機関の表示が分かりにくく、海外から訪れた人にとっては利用しづらいことなど、留学生の鋭い視点でさまざまな問題が提起されました。

九州新幹線全線開業や平成24年の政令都市移行などを踏まえ、熊本の多角的なPRを進める熊本市の今後の市政にとっても、貴重な意見が聞ける時間となったようです。

なお、番組は、過日放送されました。



平成22年度「知のフロンティア」に来場者多数



平成22年度、3回に分けて開催した「知のフロンティア」が、1月23日(日)、最終回を迎えました。

「知のフロンティア」は、本学で行われている多彩な研究を一般参加者に分かりやすく講義するもので、平成19年度から毎年開催しています。今年度は教育学部 鳥飼香代子教授、大学院生命科学研究部薬学系 中島誠教授、谷口功学長による3つの講演会を行いました。

最終回は「くまもとのクリーンエネルギーを考えるー太陽電池とバイオ電池ー」と題し、谷口学長が講演。自然の力を利用する「太陽電池」「バイオ電池」など、熊本の自然環境を生かしたクリーンエネルギーの利用・開発について話をしました。

毎回多くの市民の皆さまにご来場いただきました。

熊本知識者円卓会議



熊本大学など県内の大学や高専14校で作る「高等教育コンソーシアム熊本」(会長・谷口功熊本大学学長)主催の「熊本知識者円卓会議」が、1月31日(月)熊本城で開かれました。円卓会議には熊本県の産学官のトップが出席し、熊本のまちづくりや教育、産業振興、熊本の魅力の発揮などについて意見を交換しました。

出席者は谷口学長をはじめ蒲島郁夫知事、幸山政史熊本市長、中山峰男

崇城大学長、小野友道熊本保健科学大学長、甲斐隆博肥後銀行頭取、足立国功熊本県工業連合会長、秋池玲子ボストンコンサルティング(東京)ディレクターの8人。「熊本の新都市ビジョンを考える」をテーマに、道州制や起業する若者への支援、熊本の魅力などについてそれぞれが持論を展開。参加した学生も意見を述べるなど、2時間半の会議は大いに盛り上がりました。

教育学部美術科の学生たちが制作 巨大な“清正公(せいしよこ)さん像”



3月14日(月)から26日(土)までの2週間、「びぶれす広場」(熊本市上通り入り口)に、巨大な「清正公坐像」の彫刻が展示されました。製作したのは、教育学部美術科の学生たち。このモニュメントは、九州新幹線全線開業のイベント「街なかサプライズ」の一環として造られたものです。平成22年に制作した「風神雷神像」に引き続き、発泡スチロールを使って高さ2.5mを超す大作を完成させました。

期間中、広場には「風神雷神像」も同時展示。また、東北地方太平洋沖地震への募金箱も設置され、像に手を合わせて募金する人もいました。

平成22年度 感謝状贈呈・学生表彰



平成22年度の学生表彰式を3月15日(火)、工学部百周年記念館で行いました。

本学では平成14年度からこの表彰制度を設けており、学術研究や課外活動において優秀な成績を修めた、または顕著な活動が認められた学生や学生団体を表彰しています。また、課外活動指導者に対する感謝状の贈呈も合わせて行っています。

この日は、課外指導者1人に感謝状、4団体・17個人に表彰状を授与しました。

■ 課外活動指導に対する感謝状贈呈者



ダイビング部指導者
坂田礼司
(指導期間23年)



学長から贈呈された表彰状と記念品を手し、写真を撮り合う姿があちこちで見られた

■ 学生表彰者

ダイビング部



第43回関東学生潜水連盟フリップパー競技大会
団体優勝

応援団



地域イベントにおける応援によるボランティア活動

緒方信行研究室 街おこし《風神雷神像》プロジェクトチーム



「風神雷神像」制作によるボランティア活動

松永拓己研究室 絵馬修復プロジェクトチーム



菅原神社(菊池市四町分)の絵馬修復によるボランティア活動

テコンドー部



個人	氏名	所属	学年	大会等名	種目等名	成績
	野口 嘉津馬	法学部	4年次	第3回全日本テコンドー選手権大会	男子 +87kg級	3位
	松本 宇生	自然科学研究科	1年次	第21回全九州テコンドー選手権大会	フェザー級 男子	優勝
	西野 由希子	医学部保健学科	3年次	第8回全九州学生テコンドー選手権大会	女子 -49・-53kg級	優勝

陸上部



個人	氏名	所属	学年	大会等名	種目等名	成績
	中尾 有沙	教育学研究科	1年次	第79回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 三段跳	3位
				第65回九州陸上競技選手権大会	一般女子 三段跳	優勝
	宮原 惇	教育学部	3年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	男子 4×100mR	優勝
	大迫 淳一	工学部	3年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	男子 4×100mR	優勝
	三浦 良	教育学部	2年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	男子 4×100mR	優勝
	高岡 晃	教育学部	1年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	男子 4×100mR	優勝
	木實 祥一郎	教育学部	2年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	男子 棒高跳	優勝
	磯部 美里	教育学部	1年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 100m	優勝
				第60回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×100mR	優勝
	開 かおり	教育学部	1年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 200m	優勝
				第60回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×100mR	優勝
	大庵 樹里	教育学部	4年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×100mR	優勝
	地原 理恵	教育学部	2年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 4×100mR	優勝
	林 実穂	教育学部	2年次	第38回九州学生陸上競技選手権大会	女子 800m	優勝
				第60回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 800m	優勝
	泉 智子	教育学部	4年次	第60回九州地区大学体育大会陸上競技	女子 走高跳	優勝
	三宅 勝幸	教育学研究科	2年次	第38回九州学生陸上競技選手権大会	男子 200m	優勝
	堤 詩織	教育学部	4年次	第38回九州学生陸上競技選手権大会	女子 400m	優勝

薬学部と地元企業の共同研究で誕生!「にが茶」



商品タイプは2種類。用途に合わせて選べる「にが茶」
三角ティーバッグタイプ 10g(1g×10包) 1,575円(税込)
煮出しタイプ 60g(4g×15包) 8,400円(税込)

このたび、薬学部と地元企業との共同研究による熊大支援商品第1号、熊本県産鹿角霊芝100%の「にが茶」が発売されました。

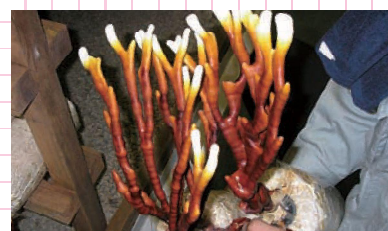
薬学部と共同研究 珍重される生薬の成分

古来より霊芝は、中国において“不老長寿の漢方薬”といわれ、珍重されてきたキノコです。国内においても霊芝は認知度が高く、中高年の健康維持のために飲用されてきました。特に熊本は鹿角霊芝の栽培が盛んな地域で、商品は多種に及んでいます。しかしながら、その菌種や栽培法、栽培環境によっては含有成分の種類や量に大きな違いがあることが分かってきました。

安定供給のために薬学部が支援

(株)にが茶と薬学部遺伝子機能応用学分野は、鹿角霊芝特有の苦味成分「ガノデリン酸類」に関する共同研究の成果に基づいて、品質評価に最適な「ルシデニン酸誘導体」を同定。熊本県内の指定農園で育てられた、特定菌種の鹿角霊芝を使用することで、安定した品質の霊芝茶の販売を可能としました。

また、薬学部は、この製品の生産ロット毎に成分分析や活性評価試験を実施。鹿角霊芝の品質を常にチェックし、安全安心な製品づくりの一役を担っています。



「鹿角霊芝」は、「霊芝」の変異体。湿度や日照などの微妙な条件下で、鹿の角のような形に生長する

「にが茶」販売取扱店

熊大生協売店
医学部附属病院 恵和会売店
シモカワ薬局全店舗

「にが茶」のご注文・ お問い合わせ先

にが茶カスタマーセンター
Tel.0120-282-528
Fax.096-288-0754
E-mail: info@nigacha.net

熊本大学オフィスを中国・大連市に設置します



このたび本学では、すでに設置している中国上海、韓国KAIST、インドネシアITSの3つに加えて、新たに中国・大連市にオフィスを設置します。今回設置する大連オフィス(仮称)は、本学と深い交流を持つ大連理工大学に隣接する大連理工大学科技园に設置し、大連理工大学に加え、中国

北部の有力大学である吉林大学、東北大学、ハルビン工業大学等と本学との研究者交流および大学間の組織的交流をさらに強化します。

第10回 薬用植物を知ろう in 熊本(阿蘇)

5月28日(土)
場 所／薬学部(大江キャンパス)
時 間／10:00～12:00
薬用植物園観察会
13:00～17:00 講演会
演 題／「ソロモン諸島の薬用植物」
杉村 康司(医薬基盤研究所
薬用植物資源研究センター
種子島研究部)
「チベットの薬用植物」
南 基泰(中部大学応用生物
学部)

5月29日(日)
場 所／阿蘇郡南阿蘇村
時 間／8:30～「南阿蘇水の生まれ
る里白水高原駅」集合
9:00～15:30
水源めぐりと薬用植物観察

申込方法／参加日、氏名、住所、電話番号、電子メールアドレスを電子メールまたは往復ハガキで右記までお知らせください

※要事前申込・参加費(28日)500円、(29日)1,000円
※薬剤師研修シールが必要な方は申込時にお知らせください

【申込・問い合わせ】
〒862-0973 熊本市大江本町5-1
薬学部薬用資源エコフロンティアセンター(薬用植物園) 矢原
Tel.096-371-4381
E-mail:
yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp



数字でわかる 熊本大学 #04

空調室外機の電源を切る省エネ対策実験

前年比の約60%の電力削減!

2009年春、空調室外機の電源を切るによりどのくらいの待機電力が削減できるのか、工学部1号館で2カ月間の省エネ実験を行いました。秋には規模を拡大して工学部2号館、理学部1・2・3号館でも実施。その結果、前年の同時期に比べて、平均で60%もの電力量を削減することができました。毎日の授業や研究には、電気・ガス・水・コピー用紙などの資源エネルギーが必要不可欠。しかし、ほんの少しの心掛けでその消費を抑えられることを、この省エネ実験が証明しました。

このデータをまとめたのは、熊本大学環境安全センター。2006年より毎年「eco-act環境報告書」を発行し、本学の環境に関するさまざまな取り組みについて公表しています。

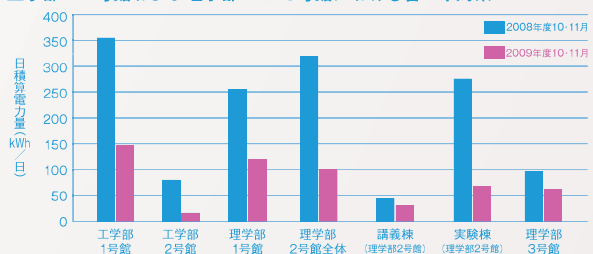
本学ではエコキャンパスの実現に向けて、2006年に「熊本大学環境方針」を制定しました。これには、環境に関する先進的な教育と環境科学分野の研究を継続することや、教職員・学生のエコへの意識を高め、一体となって環境負荷を軽減する取り組みを行うことなどが盛り込まれています。この実現のために、資源の節約を訴えるだけでなく、全学部に対する「環境安全講習会」なども実施。一人一人の環境に対する意識向上に働きかけています。

私たちは、豊かな緑と美しい水に恵まれた熊本に立地する大学だからこそ、環境に配慮した「エコキャンパス」の実現に取り組まなければならないと考えています。

熊本大学が目指す

環境モデルキャンパス

工学部1・2号館および理学部1・2・3号館における省エネ対策



建物	工学部1号館	工学部2号館	理学部1号館	理学部2号館全体	講義棟(理学部2号館)	講義棟(理学部2号館)	理学部3号館	全体
2008年10-11月	354	80	255	319	44	275	96	1104
2009年10-11月	146	16	120	100	31	68	61	442
削減率	59%	80%	53%	69%	30%	75%	37%	60%

平成23年度 公開講座

講座名	募集人数	募集締切日	開講日	受講料 (講座数)	会場名(場所名or住所)
陶芸教室 ～土と親しみ、つくる喜びをもとめて～	15名	3月31日	5月14日	10,200円 (全15回)	教育学部附属特別支援学校 陶工室(熊本市黒髪5-17-1)
宗教と思想からみた「生」と「死」	20名	4月28日	5月14日	7,200円 (全7回)	全学教育棟B201 (黒髪北地区)
心に届く健康メッセージのつくり方	20名	5月 2日	5月18日	7,500円 (全5回)	政策創造研究教育センター4階 (黒髪南地区)
歴史と景観を活かした地域づくり実践講座	20名	5月 6日	5月23日	9,900円 (全4回)	工学部まちなか工房 (熊本市南坪井町1-5)
映画公開講座「映画は万華鏡」	25名	5月13日	5月28日	7,200円 (全6回)	理学部1・2号館1階C122 (黒髪北地区)
公共政策デザイン講座	20名	5月13日	5月28日	9,900円 (全4回)	政策創造研究教育センター4階 (黒髪南地区)
ワグナー芸術への招待 ～《ニーベルングの指環》第3部・第4部～	20名	5月27日	6月 4日	10,200円 (全15回)	全学教育棟B202 (黒髪北地区)
リーダーシップ・トレーニング	30名	熊本 6月 2日	6月16日	9,900円 (全3回)	教育学部附属教育実践総合 センター(熊本市京町本丁5-12)
	20名	東京 8月11日	8月25日	9,900円 (全3回)	キャンパスイノベーション センター(東京都港区芝浦3-3-6)
看護倫理セミナー2011 ～倫理感性と倫理的判断力を磨く～	20名	6月10日	7月 2日	8,700円 (全2回)	医学部保健学科 (九品寺地区)
実践的ソーシャルマーケティング	20名	7月 1日	7月16日	7,500円 (全4回)	政策創造研究教育センター4階 (黒髪南地区)
陸上競技教室 ～うんどうかいのヒーローになろう～	40名	7月 8日	7月23日	8,200円 (全8回)	武夫原グラウンド (黒髪北地区 陸上競技場)
「食育」講座 ～各方面で活躍する食育に携わる方々のために～	30名	8月 5日	8月18日	8,700円 (全2回)	全学教育棟A202 (黒髪北地区)
エクセルを使用した統計解析 (ノンパラメトリック検定)講座: アドバンスコース	30名	8月11日	9月10日	8,700円 (全2回)	医学部保健学科第1情報演習室 (九品寺地区)
看護診断セミナー2011 ～NANDA、NOC、NICのリンケージ～	20名	9月 9日	10月 1日	8,700円 (全2回)	医学部保健学科 (九品寺地区)
看護職の人材育成セミナー2011 ～インストラクショナルデザインを 活かした教育研修や職場の学び～	20名	10月28日	11月19日	8,700円 (全2回)	医学部保健学科 (九品寺地区)

公開講座の詳細につきましては、政策創造研究教育センターホームページ(<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp>)をご覧ください。
下記担当までお問い合わせください
なお、陶芸教室は3月31日で受付を終了しておりますのでご了承ください

【問い合わせ】

マーケティング推進部地域連携ユニット 公開講座担当 Tel.096-342-3121 Fax.096-342-3239
E-mail: manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp

第3回「熊本大学東京連合同窓会」に180名が参加

2月19日(土)、東京都中央区銀座の「ホテル銀座ラフィナート」において、関東地区在住の同窓生や大学関係者など約180名の参加者により、第3回熊本大学東京連合同窓会が開催され、久しぶりに再会した懐かしい学友と、学生時代の思い出話などに花を咲かせていました。

総会・講演会では、九鬼義英東京連合同窓会会長(昭和28年法文学部卒業)、岡村宏同窓会連合会会長(昭和29年工学部卒業)のあいさつの後、谷口功学長から「未来に挑戦する熊本大学～誇れる大学から憧れられる大学へ～」と題して、法人化後の本学の近況報告や取り組みなどを中心に講演が行われました。

引き続き、藤田力也熊杏会東京支部支部長(昭和35年医学部卒業)からは「世界に誇れる日本の消化器内視鏡医学」と題して、内視鏡による手術の映像なども交えた講演が行われ、出席者は熱心に聴き入っていました。

その後の交流会では、サプライズゲストとなった、女優、タレントとして活躍中の宮崎美子さん(昭和57年法文学部卒業)のあいさつや抽選会もあり、終始和やかな雰囲気では進められました。

最後は、現役学生の体育会応援団第38代団長の山根元気団長(理学部2年次生)による“巻頭言”で、出席者全員が肩を組んで寮歌「五高寮歌」を熱唱し、交流会も大いに盛り上がりしました。

なお、出席者の宮崎美子さんからは「私も番組などで“熊本大学卒業”と言わせていただきます。熊本大学もこれまで以上に頑張ってください」とエールが送られています。



左より、九鬼東京連合同窓会会長、宮崎美子さん、谷口学長

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます

No.12(平成22年12月1日～平成23年2月28日)

卒業生の皆さま、在学生の保護者の皆さま、法人・団体等の皆さま、本学の退職者および教職員の皆さまからご寄附をいただき、平成23年2月28日現在、その寄附総額は約4億7,550万円となっております。皆さまのご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成22年12月1日から平成23年2月28日までの間に入金を確認させていただきました個人106名、4法人・団体等の寄附者すべての

皆さまへ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆さまのさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【5,000万円】	池松 静香(5,020)	【360万円】	甲斐原 守夫
【200万円】	東レ株式会社(600)	【20万円】	安部 真一(25)
【10万円】	藤井 博行	【5万円】	西野 宏(20)
【5万円未満】	伊藤 トキ		堀江 幸司
	齊藤 智久	中川 進	丸田 浩介
		松尾 康成	村中 稔
			山辺 生雅

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

荒木 忍[3]	荒木 民生[2]	有川 宣明	石山 仁明	伊津野 好一[2]	植村 純一郎[2]	魚岡 徳志	宇佐美 しおり[7]
大串 渉[2]	大倉 敬治	大野 薫子	大野 知彦	緒方 進一[3]	鬼塚 洋子	北崎 辰哉	小山 英世
坂田 満生[5]	坂田 肇子	坂田 黎一	崎田 裕己[2]	佐藤 悟	清水 孝	白石 旭[2]	新屋 一雄
瀬堀 良一	曾根田 満	園田 トヨ子	竹林 浩秀	田中 勢	田上 留美子	柘植 成光	常葉 謙二[2]
豊住 順一郎	永井 隆一[4]	永田 徹也[2]	西田 知治	野中 昶	比企 亮介	福本 不二夫	蓑田 真幸[3]
村山 伸樹[4]	山口 哲郎	山本 悦夫[4]	吉村 源喜	吉村 典子	米澤 紘二	渡邊 到紫子	渡辺 祐治[3]
医療法人社団愛天会やまうち医院				九州産業交通ホールディングス株式会社			

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人43名、1法人・団体等

熊本大学で学ぶ

4月より
順次開講

前学期
後学期

公開講座 授業開放

知識の森へようこそ。

熊本大学五高記念館と樹齢約170年の榎（まさ）の木

大学で、生涯学習を。

公開講座

キャリアアップのための専門講座から生活の質を上げる教養講座、趣味の講座に至るまで、バラエティ豊かな講座を受講できます。

※詳しくは本誌25ページをご覧ください

学生とともに学ぶ。

授業開放

熊本大学の「授業開放」は、本学の正規授業を学生とともに受講できる制度です。前学期・後学期の授業に合わせて年2回、受講者を募集しています。

※平成23年度前学期の受講生募集は終了しました。後学期の募集は8月頃を予定しています

【公開講座・授業開放に関するお問い合わせ】

熊本大学マーケティング推進部地域連携ユニット

TEL.096-342-3121 FAX.096-342-3239

熊本大学では、地域に開かれた大学として、本学が持っている人文・社会科学系、自然科学系、生命科学系の各分野における教育研究成果を生かしたさまざまな学習の場を提供しています。



国立大学法人

熊本大学

〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2-39-1 TEL.096-344-2111(代)

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

■黒髪キャンパス ■本荘・九品寺キャンパス ■大江キャンパス
[オフィス] 東京オフィス・関西リエンソフ・上海オフィス・韓国KAISTオフィス・
インドネシアITSオフィス・国際産学連携サテライトオフィス(山東大学)